

やきもの展のご案内

LIXILギャラリーは株式会社LIXILの文化活動としてやきもの展を開催しています。タイルから茶碗まで、やきものは私たちの心豊かな暮らしを彩ります。「生活とアート」をコンセプトに、森 孝一氏(美術評論家・日本陶磁協会常任理事)をアドバイザーに迎えたセレクションです。

伊藤秀人展「青瓷 釉の力」

会期:2018年4月27日(金)~6月24日(日)

会場:LIXILギャラリー



「青瓷大鉢」 H122×W550 mm 2017 年

| 本リリースに関するお問い合わせ先 |

LIXIL ギャラリー

所在地: 東京都中央区京橋 3-6-18 東京建物京橋ビル LIXIL : GINZA 2F

担当: 大橋恵美 田村志保

TEL : 03-5250-6530 Email : xbn@lixil.com



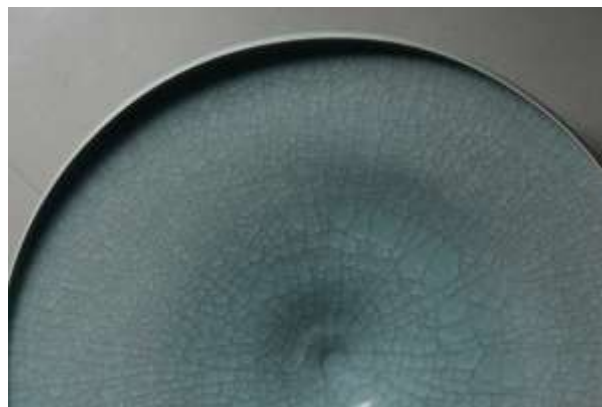
<http://www.livingculture.lixil/gallery/>

LIXIL ギャラリーでは 2018 年 4 月 27 日（金）～6 月 24 日（日）の期間、伊藤秀人展「青瓷 釉の力」を開催します。

伊藤秀人氏はこれまで白磁や練り込みによるうつわ、花器、オブジェなどを制作してきましたが、近年青瓷を制作して高い評価を得ています。伊藤氏は中国宋代の古陶磁に学び、古典の本質を自らの感性で捉え、現代に表現しています。「古典の品格と現代の美を併せ持つやきもの」を目指す作品は、この度 2017 年度日本陶磁協会賞を受賞しました。今展では、直径約 60cm の大鉢 3 点と茶道具への想いを象徴する茶碗 1 点の計 4 点を展示します。



「青磁大鉢」 H125×W560 mm 2017 年



「青磁大鉢」(部分) H125×W560 mm 2017 年

開催概要 | 伊藤秀人展「青瓷 釉の力」

会 期 2018 年 4 月 27 日（金）～6 月 24 日（日）
 ★アーティスト・トーク
 日時：2018 年 4 月 27 日（金） 18：00～18：30
 休 館 日 水曜日、5 月 27 日（日）
 開館時間 10：00～18：00
 企 画 株式会社 LIXIL
 会 場 LIXIL ギャラリー
 観 覧 料 無料
 会場写真 <http://www.livingculture.lixil/gallery/>

| 展示会の見どころ |

伊藤秀人氏は岐阜県多治見市出身、多治見市陶磁器意匠研究所にて学んだ後、開窯して 20 余年になります。独特のゆらぎのあるうつわなどの作品を制作し、2013 年パラミタ陶芸大賞展大賞などを受賞してきました。近年は青瓷による作品を制作し、2017 年には岐阜県伝統文化継承功績者顕彰（白磁、青瓷、練彩技術の保存・伝承）を受けています。

伊藤氏が学ぶ中国青瓷を代表する北宋時代の汝窯や南宋官窯は、皇帝のために誕生したやきもので、今日も世界の至宝と言われます。日本で本格的に青瓷が焼成されたのは江戸時代からですが、明治時代以降、日本の趣味人が再び宋時代の青瓷に憧れを示すと、その影響から、多くの作家が南宋官窯を目指し青瓷に挑戦します。その完成度と独創性は非常に高く、現代陶芸作家も独自の青瓷を制作しています。伊藤氏もまた独自の美しい曲線とフォルムからなる造形性に、青瓷の釉そのものが持つ力を生かし、古典と現代を繋ぐ試みを行っています。今展の作品は深い青味を帯び、*氷裂文にいたる美しい貫入に覆われています。重力を忘れたように広がるかたち、古の面影を感じさせる肌合いに、時空を超えた美のかたちをご覧頂けます。
 *氷裂文・・・釉薬層の奥深く複雑に貫入が入り、氷を重ねたような光を纏う

作者略歴 | 伊藤秀人 (ITO Hidehito)

- 1971 岐阜県多治見市に生まれる
 1991 多治見市陶磁器意匠研究所修了
 1995 テーブルウェアフェスティバル 優秀賞
 1996 岐阜県土岐市に開窯、高岡クラフト展 審査員特別賞
 1998 国際陶磁器展美濃 '98 銀賞
 2002 国際陶磁器展美濃 '02 審査員特別賞 (深見陶冶 氏)
 2004 MINO CERAMICS NOW 2004 ('12 岐阜県現代陶芸美術館)
 2007 第 54 回日本伝統工芸展 入選 ('10-12)
 2010 個展 ('11-'17) (しぶや黒田陶苑/東京)
 2011 国際陶磁器展美濃'11 審査員特別賞 (鈴木藏 氏)
 「白の時代」 (益子陶芸美術館/栃木)
 「東海現代陶芸 思考する新世代展」 (愛知県陶磁美術館)
 2012 利川陶磁器フェスティバル 日中韓ワークショップ参加 (京畿道利川市、韓国)
 2013 第 8 回パラミタ陶芸大賞展 大賞、
 「現代の名碗」 (菊池寛実記念智美術館/東京)
 2014 個展 (日本橋三越本店/東京)
 Japanese Ceramics for the Twenty-first Century (ウォルターズ美術館/U.S.)
 第 61 回日本伝統工芸展 宮内庁買上
 第 28 回東濃信用金庫 美濃陶芸作品永久保存事業に選定
 2015 「本色共感：東アジア伝統陶芸」 (京畿陶磁博物館/京畿道広州市、韓国)
 2016 Japanese Water Jars for the Tea Ceremony (Joan B Mirviss Ltd/N.Y.)
 個展 (アートフェア東京 しぶや黒田陶苑/東京)
 「近代工芸と茶の湯Ⅱ」 (東京国立近代美術館工芸館)
 中日韓、青瓷シンポジウム参加 (浙江海洋大学/浙江省舟山市、中国)
 2017 「現代の茶陶」 (茨城県陶芸美術館)
 平成 28 年度 岐阜県伝統文化継承功績者顕彰 (白磁、青瓷、練彩 技術の
 保存・伝承)
 「伊藤秀人 青瓷 碗 盃」 (画廊 光芳堂/岐阜)
 2018 「青の時代」 (益子陶芸美術館/栃木)
 2017 年度日本陶磁協会賞

パブリックコレクション

国際交流基金
 岐阜県現代陶芸美術館
 樂翠亭美術館
 パラミタミュージアム
 チャゼン美術館 (U.S.)
 とうしん美濃陶芸美術館
 美濃焼ミュージアム
 ボストン美術館 (U.S.)
 シンシナティ美術館 (U.S.)
 南宋官窯博物館 (中国、杭州)



「青瓷茶碗」 H64×W190×D180 mm 2017 年



LIXIL は、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTURE を表現していきます。LIXIL は、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。